

第4学年B組 社会科学学習指導案

授業者
研究協力者

石田 智之
外池 智、加納 隆徳

1 単元名 命が助かる「防災カードゲーム」で伝えたい ～地震災害からくらしを守る～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

前単元「住みよいくらしをつくる」の学習では、水道システムや水資源、ごみ処理についての問題の解決に向けた課題をもち、関係機関や市民が取り組んでいることを自分の家庭での実態や実践と関連付けてまとめる学習を行った。自分に身近な問題として捉え、電気やガス等の公共インフラや広く環境問題にも目を向けている子どももいる。

一方で、積極的に情報を集めることや自分の生活と的確に関連付けて考える力が十分ではなく、多様な社会的事象に目を向けながら自分の意見や提案を説明する子どもの姿への変容を期待している。

ゲーミフィケーションを取り入れた学習活動については、前単元の内容を活用した教師作のカードゲームを体験し、ゲームづくりへの理解を深めながらルールの改善を考えるなど、意欲的に取り組む姿が見られる。

(2) 単元について

本単元において目指す子どもの姿は、様々な既習の事象や日々の災害報道等を基に、防災や減災、避難、復旧等への対策や工夫の現状を自分たちの生活と的確に結び付けて表現し、地震災害への対策を真剣に考え、伝えようとする姿である。

本単元は、主に地震災害についての公助・共助・自助、地震前・地震のとき・地震後における対策や工夫に分けて着目しながら考えていく。そして、資料や地図、家族や地域の人の声、日々の報道等を活用して調べ、地震災害から命が助かるにはどうすべきかについて自分なりの考えをもつことをねらいとしている。地震は日本国内で毎日のように発生し、次の大震災についての被害予想がしばしば報道されている。夏休み中にも津波警報が各地に出るなど、地震・津波災害に対する不安感が消えることはない。そのため、比較的興味・関心をもって学習に取り組みやすい反面、どこか人ごとであったり対策が国や県といった大きな部分に目が行きがちになったりし、自分ごととして考える機会が少ないのではないかと考えられる。この単元では、公助として関係機関によって行われている対策の理解から、自分でもできる避難時の豆知識のようなものの提案まで扱うことで、今後も身の回りの社会的事象に目を向け自分の生活に生かしていける子どもの育成につながるものと考えている。

加えて、ゲーミフィケーションを学習活動に取り入れた本単元は、ゲームをつくるという手段を通して地震災害に関わる現状に目を向けたり、その対策や工夫を調べたり考えたりして意欲的に相手に伝えようとする姿が期待され、主体的な学習になるものと考えている。

(3) 指導について

本単元では、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを捉えようとする資質・能力を高めることを目指す。

授業デザインの取組の一つ目との関連から、災害対策や工夫についての自分なりの考えをもつためには、地震災害の恐ろしさやそれに対する公助・共助・自助の視点からの工夫を実感できる資料の提示や共感が重要である。対策や工夫の現状、当事者の心情、自分たちの生活との関連など、資料や市の防災担当者等の説明を関連付けて理解し、課題意識がもてる学習につなげる。

授業デザインの取組の二つ目との関連から、論理的に説明する力を高めるために、お互いの考えについて情報交換する場を設ける。命が助かる対策や工夫を調べるほどに、羅列的なまとめることが考えられるが、いつどこですべきものなのか、公助・共助・自助のどれに当たるのか等を見極めて工夫のバランスを考えること、様々な対策や工夫を自分（たち）の中でランク付けし、なぜその工夫が重要なのかを考えること等の思考を通したものになるよう互いに見直し、修正する場を設ける。また、互いのつくったゲームを体験し合うことは、それ自体が情報交換となり、他者の考えに触れる機会ともなる。

授業デザインの取組の三つ目との関連から、自分の言葉で考えや提案を説明する必然性のある学習過程とするために、ゲームづくりという形で地震災害から命が助かる対策や工夫を発信することをイメージした学習過程を工夫する。子どもたちは地震災害の起きる場所や場面を意識しながら、主に自助・共助の部分で特に関心をもった対策や工夫を選択し、相手意識をもって命が助かる対策や工夫の提案ができるような単元構成を考えていく。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 地域の関係機関や人々の努力や現状を調べることを通して、地震災害から命が助かる様々な対策や工夫をしていることについて理解することができる。 〈134・177〉
- (2) 地震災害の被害を減らすために地域の人々が協力していることや、今後の地震災害に備えた対策や工夫を自分の生活に関連付けて考え、表現することができる。 〈135・117〉
- (3) 地震災害から命が助かる対策や工夫に関心をもち、関係機関の協力や地震災害から人々を守る活動、今後への備えなどについて主体的に調べ、伝えようとする。 〈172・111〉

4 単元の構想（総時数12時間）

水道やごみ処理の事業は、地域の衛生的な生活の安定や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを考える。

住みよいくらしをつくる

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1) 主に県内の自然災害について知り、災害時の不安や困ったことを予想し、話し合う。 →各家庭での調査	・自然災害に関する写真や地図、年表等の資料を示し、問題意識を高める。	・県内の自然災害の概要について資料を読み取り、学習の見通しをもっている。〈77〉
2	(2) 各家庭での不安等を出し合い、地震災害で起こり得ることを知る。	・子どもたちが調べてきた各家庭での不安等を集約し、学習問題づくりや解決に向けた調べ学習の方向性を確かめる。	・家庭での聞き取りや自然災害についての資料を基に、学習問題を考えている。〈77〉
3	(3) 地震災害に備えた対策や工夫にはどのようなものがあるのかを身の回りから想起し、学習問題をつくる。	・出されたものを「公助・共助・自助」の視点と「地震の前・地震のとき・地震の後」の視点から分類し、いつ、だれが行うものか考えられるよう意識付ける。	・地震災害への対策や取組の主体者や時期について、前時の学習問題に加えた学習問題を考えている。〈77〉
学習問題 地震から命が助かるにはどうしたらよいのか。また、それはいつ、どこで、だれがやるものなのか。			
4 5 6 7	(4) 「公助」「共助」「自助」に分けて、調べたことを基に話し合う。 ・いろいろな立場で対策しているんだなあ。自分の家ではどうなのかな。 →各家庭や地域での調査	・問題解決のために必要な情報を収集することができるように、活用できる資料を確かめたり、図書資料を準備したりする。 ・秋田市の防災安全対策課の方には話を聞く機会を設定する。 ・いつ、だれが、何のためにしていることなのかを整理してまとめられるよう意識付ける。	・資料から情報を集め、地震災害への対策や取組について、ノートやシートに整理している。〈135・117・711〉
8 9	(5) 主に「自助・共助」について、資料等から地震対策を調べ、ゲームの原案をつくる。 ・ぼくの家では地震の後にどうするかははっきりしてなかったから、その対策を調べたい。	・家族への調査から、足りない対策や改善策を調べるなど、目的意識がもてるようにする。 ・自他の考えを参考にしながら、ゲームのアイデアを考えられるようルールやシステムを確かめる。	・地震災害への対策や工夫について、自分なりにまとめている。〈134・711〉
10 本時	(6) 地震災害への対策や工夫についてのアイデアを出し合い、比較・検討してゲームづくりをする。 ・みんなの命が助かるように、しっかり伝えるようにしたいね。 ・見直しポイントを基にして、ゲームが盛り上がるようにしたいな。	・「命が助かる」対策や工夫を伝えることを確かめ、より伝わるようなゲームのアイデアを見直すポイントを話し合う場をもつ。 ・見直しのポイントに基いて自分のアイデアを改善し、友達と考えを出し合いながら検討するための情報交換を促す。	・地震災害への対策や工夫について見直し、自分の生活と関連付けてゲームをつくっている。〈134〉
11 12	(7) ゲームに改善を加えながら友達とゲームを楽しむ。 ・さらに改善しながら、友達とゲームを楽しみたい。 ・そんな工夫もあるのかあ。すごい！ →家庭や地域でゲームをする	・改善をしながら楽しくゲームが進むよう、グループ変更や新しいルールの試行ができるようゲームの場づくりをする。	・ゲームを楽しみながら、これからの防災やよりよい社会の実現のために協力しようとしている。〈72・134〉

◎本単元で育む主な資質・能力

地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを捉える。(134)

特色ある地いきと人々の暮らし

特色ある地域の自然環境、活動の歴史的背景、人々の協力関係などについて主体的に調べ、人々が協力してまちづくりを進めていることを理解する。

5 本時の実際 (10/12)

(1) ねらい 地震災害への対策や工夫に着目し、それらを伝えるためのゲームをつくる活動を通して、命が助かるための行動を自分の生活に関連付けて考えて表現することができる。 〈134〉

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評 価
3分	① 前時までの学習を振り返り、学習の流れを確認める。 〈予想される子どもの反応〉 ・ゲームが盛り上がる防災豆知識を見つけたよ。 ・もう少し分かりやすく伝えたいな。	・ゲームづくりのねらいやゲームのシステムの確認をし、ゲームカードの内容がより伝わるものになるよう意識付ける。
12分	② ゲームカードの例を基に、自分のアイデアを見直すポイントについて話し合い、本時のめあてをもつ。(全体) 〈予想される子どもの反応〉 ・「地震の前」のことが少ないな。もう少し調べたいな。 ・その対策で本当に命が助かるの？理由がもっと書いてあるといい。 ・「LIFE」ポイントでランク付けしてみよう。どうやってランクを決めようかな。	○どんな見直しを図っていくべきか具体的に話し合えるよう、いくつかの不完全なカード例を示し、自分のカード案を見直すポイントに気付けるようにする。 〈見直しのポイント〉 ①「地震前・地震のとき・地震後」が偏っていないか。 ②その対策や工夫の理由や説明は分かりやすく書かれているか。 ③たくさんある対策や工夫から、特に伝えたいものが整理されているか。
	学習課題 「命が助かる」対策や工夫を伝えるために、どんなゲームをつくれればよいだろうか。	
27分	③ 自分のゲームカード案を見直し、ゲームづくりを進める。(個⇔グループ⇔全体) 〈予想される子どもの反応〉 【対策や工夫についての説明が不足している】 ・これはいつやればいいのか？どうしてこれで助かるのかももっと書くべきだな。 ・面白い工夫だけど本当にできるのかな。自分でできることを増やさないと。 【「LIFE」ポイントの決め方の根拠が弱い】 ・ぼくが一生懸命調べたんだから、これは高くない！面白いし。 ・どれもいい。どうやって決めたらいいか悩む。 ・他のみんなに問題を出してみても、その結果から決めるのはどうかな。 ・命にかかわるものからランク付けしてみたら？ 【現実の対策や工夫を基に、自分の生活に合わせて表現している】 ・避難のときはブレーカーを落とすといい。家のブレーカーの場所を知っておくとか、高い所にあるから背の高いお父さんの役割にしておくとか地震前にしておくこともあるな。	・ゲームづくりの楽しさだけでなく、「命が助かる」ことを伝える目的意識を確かめながら進める。 ○ゲームづくりの中で、見直すポイントに照らして迷いや困難が生じたときは、グループ内や全体に投げかけて情報交換ができることを確かめる。 ・地震対策の事例やグループの「LIFE」ポイントの決め方に違いがあることを紹介し、地震対策への考え方やゲームづくりの工夫は様々あることを伝える。 ・グループ内で小さな議論が起きていたら全体にも広げ、根拠や類似事例を示すことによって相手が納得できることを確かめる。
	地震災害への対策や工夫と自分の生活に関連付け、自分の考えをゲームカードの中で表現している。 〈134〉(シート、カード、発言)	
3分	④ 本時の振り返りをする。 〈予想される子どもの反応〉 ・「LIFE」を決めるときにアンケートで決めたのがよかった。知られていない対策は高得点に！ ・次は友達を自分のつくったゲームで楽しませたい！友達のもやってみよう！	・どんなポイントで見直しができたか振り返られるよう助言する。 ・次回は改善しながらゲームを行うことを伝え、今日の活動を振り返る時間をもつ。

令和7年度 社会科実践・研究計画

部 員	○石田智之、山崎泰明、石井知徳
-----	-----------------

1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践を通して、社会科における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 6年「歴史調査～秋田の戊辰戦争とは！？～」では、本校6年生が修学旅行で訪れる函館とふるさと秋田の「戊辰戦争」でのつながりに気付くことから単元の学習が展開されるように、秋田市の身近な場所にある秋田の戊辰戦争戦死者の墓や碑の写真資料や新聞記事を提示した。また、秋田の戊辰戦争に関わるものや人に直接接触し、観察や聞き取りを通して情報を集めることができるように、秋田市八橋全良寺にある戊辰戦争戦死者の墓に刻まれた文字を読み取る野外調査活動や官修墓地を守ってきた全良寺住職の講話を聞く活動を設定した。観察や聞き取りを通して秋田の戊辰戦争に関わるものや人に直接接触する機会を得たことで秋田の戊辰戦争が自分事となり、そのことを学ぶ切実感が子どもたちに生まれていた。このことにより、問題意識をもちながら、その問いを解決しようと本気になって追究していく姿が見られた。切実な課題をもつための資料提示や体験の重要性が確認できた。
- ② 5年『食料問題解決ゲーム』をつくろう！～これからの食料生産とわたしたち～』では、様々な食料問題についての原因と現状を各自が調べ上げ、その解決策について考えをもつために、ペアやグループ、他グループの仲間にも意見を求めたり情報交換をしたりする場面を柔軟に設定した。解決策には、現状の改善、原因の追及、一つ先の未来に向けた解決策などが考えられ、情報交換をする中で自分の考えを整理したり、新たな課題を問い直したりしていく姿が見られた。また、そのようにしてつくられたゲームを互いに試し合うことも情報交換の場となり、広く社会的事象を見つめていく機会ともなった。しかし、より効果的に情報交換による考えの更新につながる単元構成の工夫の必要性がある。

こうした成果と課題を踏まえ、個別の課題を追究する学びと協働で情報交換や話し合いを進めていく学習活動の往還が効果的に行われる学習になるよう、学習全体を支える資料や学習方略の精選をし、子ども自身が問題解決のために自らの学習状況を見つめ、考えを深める姿を引き出すための授業構想していく。社会科部では自律した学習者の姿を次のように捉え、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 社会科における自律した学習者の姿

- ① 資料や社会的事象を基に課題をもち、解決への見通しをもつ姿
- ② 自らの学習状況を見つめ、調べ直したり考え直したりしながら社会的事象を追究している姿
- ③ 根拠や理由を明確にしてまとめ、自分の意見や提案を説明している姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 複数の資料や日常生活につながる事象等、価値ある問いを促す資料提示をする。
- 互いの考えのずれや曖昧さを情報交換によって焦点化し、全体で共有する場をもつ。
- まとめを基に、問題の解決や自らの生活への活用を意識した、自分なりの考えや提案を述べる場面をゴールとする単元構想を工夫する。

令和7年度「社会科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連 内容	3年	4年	5年	6年
社会科の学びに 向かう力、 人間性等	ア1	社会的事象について主体的に問題解決し、社会的事象の特色や相互の関連、意味などを考えようとする。	3年(2)、(3)、4年(2)、(3)、5年(2)、(3)、(4)、(5)、6年(1)、(3)	□	■	■	■
	ア2	社会的事象について主体的に問題解決し、地域社会の一員としての自覚をもとうとする。	3年(1)、(2)、(3)、(4)、4年(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	□	■	■	■
	ア3	社会的事象について主体的に問題解決することを通して、我が国の産業の発展やよりよい社会を実現していくために協力しようとする意識をもとうとする。	5年(2)、(3)、(4)、(5)、6年(1)、(3)			□	■
	ア4	社会的事象について主体的に問題解決することを通して、我が国の歴史や伝統を大切にし、世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚をもとうとする。	6年(2)、(3)			□	■
	ア5	生活経験や資料、日常的な情報(図書、新聞、テレビ等)、体験的な活動の中から、疑問や追究したいことを発見しようとする。	3年(2)、(3)、4年(4)、(5)、5年(4)、6年(1)、(3)	□	■	■	■
	ア6	社会的事象にかかわる追究活動や学習成果を共有することを通して、新たな疑問や追究課題を見つけようとする。	4年(2)、(3)、5年(2)、(3)、(4)、(5)、6年(3)		□	■	■
	ア7	自分や仲間の問題意識を大切にしながら、社会的な事象の追究にかかわる学習問題を設定しようとする。	3年(1)～(4)、4年(1)～(5)、5年(1)～(5)、6年(1)～(3)	□	■	■	■
	ア8	予想に基づいて自分なりの学習問題を設定し、解決する方法を考えようとする。	4年(1)～(5)、5年(1)～(5)、6年(1)～(3)		□	■	■
	ア9	学習課題や対象となる社会的事象に応じた調べ学習の手段(図書資料、インターネット、訪問やインタビュー等)を選択して、学習計画を立てようとする。	3年(2)～(4)、4年(2)～(5)、5年(2)～(5)、6年(1)～(3)	□	■	■	■
	ア10	追究の目的に応じた資料(実物や写真、地図・統計資料など)を集めようとする。	3年(1)～(4)、4年(1)～(5)、5年(1)～(5)、6年(1)～(3)	□	■	■	■
	ア11	社会の様子や仕組みについて調べたことを、過程や結果を工夫し、情報交換に応じた適切な方法(図、表、イラスト、白地図、年表、グラフ等)を選択しながら表現しようとする。	3年(4)、4年(2)、(3)、(4)、(5)、5年(2)、(3)、(4)、(5)、6年(2)、(3)	□	■	■	■

社会科の各領域 の付けたい力 地理的環境と人々の生活	イ1	身近な地域や自分たちの市の様子を観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめる。	3年(1)、(4)	□	■	■	■
	イ2	都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現する。	3年(1)	□	■	■	■
	イ3	地域に見られる生産や販売の仕事について見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめる。	3年(2)	□	■	■	■
	イ5	我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して県の様子をとらえ、地理的環境の特色を考え、表現する。	4年(1)		□	■	■
	イ6	県内の特色ある地域について地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめる。	4年(5)		□	■	■
	イ7	特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子をとらえ、それらの特色を考え、表現する。	4年(5)		□	■	■
	イ8	我が国の国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見た特色ある地域の人々の生活をとらえ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考える。	5年(1)			□	■

社会科の各領域 の付けたい力 歴史と人々の生活	イ9	自然災害や公害の発生位置、森林の広がりなどを調べ、白地図にまとめる。	5年(5)			☐	■
	イ10	教科書や地図帳に載っている主な地図記号を概ねとらえる。	3年(1)	☐	■	■	■
	イ11	地図帳や地球儀から情報を読み取り、活用する。	3年(1)、(4)、4年(1)、(5)、5年(1)、(2)、(3)、(5)、6年(2)、(3)	☐	■	■	■
	イ12	都道府県名とその位置を概ねとらえる。	4年(1)、5年(1)、(2)、(3)、(5)		☐	■	■
	イ13	地図帳に載っている世界の主な国名とその位置を概ねとらえる。	5年(1)、6年(3)			☐	■
	イ14	市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことをとらえる。	3年(4)	☐	■	■	■
	イ15	市の様子の移り変わりについて、聞き取り調査をしたり地図などの資料を調べたりして、年表などにまとめる。	3年(4)	☐	■	■	■
	イ16	交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとらえ、それらの変化を考え表現する。	3年(4)	☐	■	■	■
	イ17	自然災害から人々を守る活動について、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめる。	4年(3)		☐	■	■
	イ18	県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることをとらえる。	4年(4)		☐	■	■
	イ19	地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことをとらえる。	4年(4)		☐	■	■
	イ20	県内の伝統や文化、先人の働きについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめる。	4年(4)		☐	■	■
	イ21	歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子をとらえ、人々の願いや努力を考え、表現する。	4年(4)		☐	■	■
	イ22	当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的な事例をとらえ、先人の働きを考え表現する。	4年(4)		☐	■	■
	イ23	年表を読み取り、活用する。	3年(4)、4年(4)、6年(2)	☐	■	■	■
	イ24	教科書に登場する歴史人物の業績をとらえる。	6年(2)				■
	イ25	我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産、遺跡や文化財などをとらえ、歴史を学ぶ意味を考えたり、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて表現したりする。	6年(2)				■

社会科の各領域の付けたい力 現代社会の仕組みや働きと人々の生活	イ26	生産の仕事は、地域の人々の生活と密接に関わりをもって行われていることをとらえる。	3年(2)	☐	☒	☒	☒
	イ27	仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子をとらえ、地域の人々の生活との関連を考え、表現する。	3年(2)	☐	☒	☒	☒
	イ28	販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることをとらえる。	3年(2)	☐	☒	☒	☒
	イ29	消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子をとらえ、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現する。	3年(2)	☐	☒	☒	☒
	イ30	消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることをとらえる。	3年(3)	☐	☒	☒	☒
	イ31	地域の安全を守る働きについて施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動をとらえ、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現する。	3年(3)	☐	☒	☒	☒
	イ32	飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることをとらえる。	4年(2)		☐	☒	☒
	イ33	廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることをとらえる。	4年(2)		☐	☒	☒
	イ34	地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることをとらえる。	4年(3)		☐	☒	☒
	イ35	過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動をとらえ、その働きを考え、表現する。	4年(3)		☐	☒	☒
	イ36	我が国の農業や水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考える。	5年(2)			☒	☒
	イ37	我が国の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える。	5年(3)			☒	☒
	イ38	我が国の放送、新聞などの産業は、国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることをとらえる。	5年(4)			☒	☒
	イ39	我が国の国土の自然環境と自然災害への対応、森林資源の保護、公害の防止に見られる人々の生活や産業との関連を考え、表現する。	5年(5)			☒	☒
	イ40	我が国の政治の働きについて、国民主権と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることをとらえる。	6年(1)				☒
	イ41	世界の中の日本の役割について、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることをとらえる。	6年(3)				☒

〈社会科の学びを支える「見方・考え方」〉

a 社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目してとらえ、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして考える。

〈領域の学びを深める「見方・考え方」〉

地理的環境と人々の生活

歴史と人々の生活

現代社会の仕組みや働きと人々の生活

b 位置や空間的な広がり の視点に着目して、地理的な社会的事象をとらえる。

c 時期や時間的な経過の視点に着目して、歴史的な社会的事象をとらえる。

d 社会的事象と人々との相互関係の視点に着目して、身のまわりで起こる社会的な出来事をとらえる。